2023年度「自己評価結果報告書」

東京大谷幼稚園

当園ではこの度、2023年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

Ⅰ. 教育目標

健康な心と体を育む　4つの力

- 「自分を表現する力」
- 「チャレンジする力」
- 「相手を思いやる力」
- 「自分の考えを持つ力」

Ⅱ. 今年度の重点目標

●教育内容の見直し・質の向上　●非認知能力プログラムの充実　●教職員感の連携の充実

Ⅲ. 評価項目と取組み状況

重点課題		評価項目	具体的に取り組めたこと	
1	教育内容の見直し質の向上	・従来のやり方にとらわれず、主体的な子どもの行動に繋がる教育内容を追求できたか	B	・各学年で年度の初めにに活動内容の見直しをする話し合いが行われている。その中で子どもの主体性を引き出す保育計画を立案することができた。 ・今の子どもたちの姿を見て判断したり、環境に配慮したりしながら教育内容を考えることができた。 ・子どもたちの興味関心にアンテナを張り、“やってみたい・面白そう”を引き出せるような内容を考えた。また、計画したことを実行するだけでなく、子どもの声や様子によって変更できる余白を残しながら教育活動に取り組んだ。　・年長児だからこそ楽しめる実験や製作等に取り組んできた。活動後にドキュメントを掲示することで子ども同士の会話が膨らむ効果もあった。
2	非認知能力プログラムの充実	・各学年で設定さ入れている非認知能力に関する理解を深めることができたか　・日々の活動や遊びの中で育まれる非認知能力を意識しながら計画を立てることができたか	B	・にじいろキッズプログラムができたことで、各学年で育んでいきたい非認知能力が明確になり、共通認識をもって保育計画をたてることができた。 ・年少クラスではコミュニケーション能力を育てるために「3クラスの交流を大切にする」という目標を常に意識しながら活動を展開することができた。　・にじいろキッズのキャラクターが子どもたちにも浸透し、自分に得意と苦手があり、友だちにも同じように得意と苦手がるという自己理解や他者理解に繋がる温かい環境が園の中に自然に生まれ始めた。 ・一つひとつの活動にミーティング（年長）の要素を取り入れ、子どもたちの意見を引き出すためグループで話し合う機会を多く作った。
3	教職員間の連携の充実	・学年のみならず、行事の時などは学年の枠を超えて全体を見ることができたか ・仕事を効率的に進められれるよう職員間のコミュニケーションは十分にはかれたか ・子ども理解のための情報共有、環境構成を職員間で連携をとりながら行えたか	B	・日々の保育や放課後の仕事と多忙な時間の隙間時間を上手に活用する工夫を考えている。子どものことに関する情報共有は職員室での隙間時間を活用し、コミュニケーションがはかれたと思う。　・担任同士のコミュニケーションに比べ、フリー職員とのコミュニケーションの時間を確保するのが難しかった。　・効率的に仕事を進められるよう、できる仕事は分担して行った。　・クラスの子どもだけでなく、学年全体で子どもの関係づくり大切にするための年少ノートをうまく活用することができた。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

2023年度「自己評価結果報告書」

東京大谷幼稚園

重点課題	評価項目	具体的に取り組めたこと

Ⅳ. 今後取り組むべき課題

1	教育内容の見直し 質の向上	・来年度からスタートする満三歳児クラスのために2歳児の保育計画を「にじいろキッズプログラム」とかけ合わせてたてていきたい。 ・にじいろキッズプログラムを意識した保育計画を立てるために、どんな力を育んでいきたいのかを理解して目標を立て、学年間で共有しながらコミュニケーションをとっていく必要がある。 ・“ありのまま”を大切にする保育目標がブレなければ職員それぞれが得てきた知識を活かせるだろうし、それを活かそうとする大谷らしさを忘れない新しいものを生み出せると思う。
2	非認知能力プログラムの充実	・にじいろキッズプログラムを充実させていくために、今年度取り組んだ実践を振り返り、そこで見えてきた子どもの変化を記録し次年度以降の保育計画に反映していきたい。 ・新しいことに取り組む姿勢が必要。そのために色々な角度から物事を捉えられるようアンテナを張り、トライ＆エラーを繰り返しながらプログラムの充実をはかっていきたい。 ・にじいろキッズキャラクターを日常の生活の中に取り込んでいき、子どもたちの中で他者理解が進んでいく環境をつくっていきたい。
3	教職員間の連携の充実	・フリー職員との連絡ツールとして学年で活動ノートを作成し、情報共有の時間を確保できない部分を補っていた。忙しい時期にコミュニケーション不足に陥らないよう工夫していきたい。 ・学年間のコミュニケーションだけでなく、他学年との情報共有も積極的に行っていきたい。 ・子どもの情報共有は対面だけでなく職員全体で理解できるようにまとめるなど工夫をしていきたい。 ・職員間の連携は取れていると思うが、他学年の担任の先生からの声にもっと耳を傾けていきたい。

Ⅴ. 学校関係者の評価

【「にじいろキッズプログラム」に対する関係者評価】
多様性の尊重では、例えばひとつのおもちゃにしても、その子によっていろいろな遊び方ができます。自分が思いついた物も、他のお友だちが思いついた物も、どれもいいねと言い合えるのは、肯定感も上がるし自信にも繋がるし、家庭だけよりも視野が広がる場面がたくさんあると思うので、とてもいい刺激になると思います。
まず自分の子どもが、７人のキャラクターの中から自分がどれに似ているか（好きか）を選べたこと。お友達がどれを選んだかを楽しそうに話してくれたことが、「自分やお友達には個性があることを理解しようとしている一歩かもしれないな」と感じて印象的でした。

得意不得意があって当たり前、という認識は一般的かもしれませんが、大谷幼稚園の教育はもう一歩踏み込んで「得意不得意があるのだから、こうしてみよう。話し合ってみよう」とその先につなげようとしてくださっているのが伝わり、とてもありがたく思っています。
こどもたちが、楽しく、学べる場面とかが多くなればいいとおもいます、楽しく全力で遊んでくれる先生たちも今後も期待します。

・立ち上げの際には、プログラムのキャラクター名を募集してくださいました。子供たち自身が名付け親になることにより、プログラムに愛着を持てるようにという意味もあったかと思いますが、園が全てをお決めになるのではなく、子供たちにも決める機会を与えてくださったところが、子供たちの自主性を重んじる大谷幼稚園らしくて素晴らしいと思いました。

【教職員間の連携に関する関係者評価】
先生方には、本当に感謝しています。長男の時から常々感じていますが、担任の先生はもちろん、全員の先生で見守ってくださっていることを感じていました。今年度役員になり、それをさらに身近に感じることができて、改めて大谷幼稚園にしてよかった、大好きだなぁと日々思っております。いつもありがとうございます。
入園当初から、担任の先生以外のどの先生も、我が子の名前・顔を覚えていて、ニコニコとエピソードを話してくださることに本当に驚きました（トイレができた、◯◯を食べた！など…）　毎日のバスに同乗される先生がローテーションで変わっていくのも、親子ともに色々な先生と交わる機会となっていて、細かい点かもしれませんがとても安心感に繋がっています。

「どの先生にうかがっても、相談に乗っていただける雰囲気」は、まさに先生方の連携のたまものだと思っています。

学校評価委員　山本　和洋

学校評価委員　福田　ゆかり

学校評価委員　井上　望実